

<総合技術監理について>

総合技術監理とは、技術を推進する上で、関連事項を調整する、経営視点に立ったものです。

総合技術監理には、以下の5視点があります。

- ① 経済性管理：作業工程や利益などを管理するもので、一般的に技術管理というところの管理を示すものが多いです。
- ② 安全性管理：従業員が業務に従事しているときに、安全性を管理し、事前に危険性を排除しなければなりません。これは特に建設現場、工場で重要になってきます。
- ③ 人的資源管理：業務を推進する上で、人員の問題と、人材の能力の問題があり、これを管理することが本管理になります。
- ④ 情報管理：インターネット時代では情報はいったん漏洩すると、致命的な被害を負うこともあります。また、ウィルスに感染すると社内システムの破損、情報漏洩、他社への感染による評価の低下、取引打ち切り、損害賠償リスクなどが発生します。それを管理します。
- ⑤ 社会環境管理：事業を推進する上で発生する汚水や騒音などの環境問題を管理します。

建設現場では、以下の通りになります。

- ① 経済性管理：作業工程、下請け代金との調整による利益確保
- ② 安全性管理：技能者などの労務安全管理、例えば、安全帯着用の徹底、親綱の徹底配置
- ③ 人的資源管理：新規入場者への座学、現場による教育。特に最近では長時間の座学が多い。
- ④ 情報管理：作業事務所での写真管理など、または工程や作業単価の漏洩防止
- ⑤ 社会環境管理：発生する騒音などで、遮音シートを敷地境界線に張ったりする。

これらの管理はトレードオフの関係になっています。例えば、工程を短くしようと思えば（経済性管理）、人的資源が必要となり（人的資源管理）、それに伴って安全性も向上せねばなりません（安全性管理）。

よくされるのが、作業工程を利益確保のまま、今の人員で突貫する、ということですが、突貫でやる分、安全性は低下しますし、当然品質も悪くなり、将来の顧客による瑕疵担保に基づく訴訟リスクをはらんでいます。

トレードオフの考え方がしっかりしていないと、このような精神論的なことがまかりとおりとおり、結局、ダメになります。戦前、日本が戦争に負けたのも、このような精神論的なことがまかり通ったからです。

このような前近代的な思考から、近代思考に向上させるのに、重要なのが、技術士（総合技術監理）です。

* 監理は広く、管理は狭い範囲を示します。